

骨髓バンク 2006年1月 会報30号

会報発行：骨髓バンクを支援するいばらきの会 <http://ibaraki.marrows.jp/>

発行責任者：牛島英二 編集：小田倉孝夫・山崎揚久

<事務局>〒311-1415 茨城県銚田市造谷605くるみ屋内

TEL：090-8306-7111 / FAX：020-4623-9971 / E-mail：bmt-ibaraki-owner@egroups.co.jp



新年のご挨拶

会長 牛島英二



会員の皆さん、新年おめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年の骨髓バンクを振り返ってみましょう。

まず全国レベルでは、月間登録者数が8, 9, 10月と連続3ヶ月で過去最高記録を更新しました。特に10月は6, 873人という驚異的な数字であり、こうした急増ぶりの背景には①AC公共広告機構の井原CM効果②申込書のチャンス綴じ込みや財団HPからのダウンロード開始など登録手続きの簡素化③登録年齢が18～54歳への拡大などの相乗効果が挙げられます。10月末での登録者数は224, 446人で、このままのペースが続けば目標30万人到達も3、4年先と夢ではなくなってきました。

また、移植数でも10月は月間過去最高の98例となり、今年度の総数はこれも過去最高の900例を超えることが確実で、12月末までに7, 000例に到達する見込みです。

このような、登録数や移植数の順調な増加は移植を待つ患者さんの救命に大きく寄与していることは言うまでもなく、誠にうれしく、喜ばしいことです。

次に茨城県では、10月末時点での登録者数が4, 436人で目標達成率64.28%、同全国平均の74.82%には遠く及びませんが、達成率全国順位は26位となつて、3月末時点での35位からは大きく順位を上げたこととなります。さらには今年度の増加数は567人で、10月末時点で既に過去最高の増加数を記録しています。これもひとえに、県薬務課、各保健所、血液センターの大変積極的なご尽力とご協力によるものですが、いばらきの会メンバーの皆さんの日々のご努力の賜物です。当会のドナー登録会参画に対する基本姿勢は、「一人でも多く、一刻も早く患者さんの救命に寄与する」であり、決して記録のためにやっているわけではありませんが、私たちの努力の結果がやはり数値で示された方が励みにもなりますし、目標も立てやすくなります。

昨年のいばらきの会では、チーちゃんこと植村千絵美さんがめでたくドナー経験者となり、患者さんの救命に直接寄与できたことが最大の明るい出来事でした。チーちゃんの元気な骨髓細胞が患者さんの健康回復に役立ってくれていることを心から望んでいます。

また新会員の方がたくさん入会していただいたこともうれしい出来事でした。その中には移植を受けて元気になったお子様のご両親も含まれており、そうした子供たちの明るい笑顔に直接触れることは私たちの明日への最大の活力となります。

会員の皆さん、さあ今年も全国で移植を待ち望む患者さんのために、一歩ずつ「気負わず、あせらず、できることから、楽しく」活動して参りましょう。

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

10月29日 臨時定例会（くるみ屋）

定例会に参加された皆さん、大変お疲れ様でした。とても楽しく、愉快で、実に有意義な会となりました。皆様のご協力のおかげで、総合司会担当の私も気持ち良く司会進行することができました。後半の懇親会ではくるみ屋さんの心尽くしのおいしい料理（なんとなんとあんこう鍋が出ました！くるみ屋さんの出血大サービスにもう感謝、感謝です。）の数々と、皆さんが持ち寄ったおいしいお酒（伊井さんからいただいた広島地ビールもとてもおいしかったです。またお願いします。と楽しいおしゃべりで心ゆくまで楽しい時間を過ごすことができました。食堂内では細谷Jr.、鈴木Jr.、佐藤ルカちゃん、&看板犬クリが私たちの楽しい雰囲気触発されたか、もう元気に走り回り、アットホーム&ファミリーいばらきの会のミニ運動会もやってきました。こうした移植を受けて元気になった子供たちの明るい笑顔と陽気なはしゃぎ声は、私たちにこれからがんばろうというエネルギーをたくさん与えてくれました。定例会を開催してほんとに良かったなと心から思えた一時でした。またほとんどの方が、翌日の登録会&バルーン募金にもご参加いただき、誠にありがとうございました。定例会時に実施した説明員研修会の実地研修に、取手支部3名（貴井さん、稲葉さん、望月さん）、林さん、大石さんの5名の方が参加され、めでたく研修終了となりました。皆さんには今後の登録会場での活躍を大いに期待いたします。説明業務も最初は大変そうですが、場数を踏めばしだいに慣れてきますので、ご心配には及びません。でも慣れすぎると説明に段々アドリブが増えてきて説明時間が長くなる傾向にありますので、古株の説明員の方も含めてご留意ください。（牛島英二）

※オブザーバーで参加いただきました神奈川の会の武田さんのコメント

定例会では色々とお世話になりありがとうございました。神奈川の会の武田です。「くるみ屋」さんでの定例会、建設フェスタでの「献血併行登録会」、「バルーン募金」等と、神奈川の会では得られない貴重な二日間で、これからの活動の参考とさせていただきますたい事が随所にありました。特に活動のあちこちに、貴会モットーのひとつ「楽しく」が感じられ、機会あれば、またお伺いしたいので、その節はよろしく願いいたします。神奈川での「登録会」活動では、毎回登録会の業務・片付け作業におわれ、なかなか牛島さんとは、じっくりと話し合う機会がなかったのですが、茨城まで同行させていただき、貴重な時間を頂くことが出来ました。さらに「くるみ屋」さんには、出血大サービスのもてなしに感謝いたします。「いばらきの会」皆様とは、これからも親交をさせていただきたく、何卒、よろしくお願いいたします。

「神奈川骨髄移植を考える会」 武田和久



事務局長ご夫妻：11/13祝！ご結婚6周年&夫11歳&妻10歳

なお、臨時定例会の席上で地区普及広報委員のメンバーにより下記の事項に関し打ち合わせを行いました。

1. 年度初めの登録会企画立案の方策について

(1) 年度初め4～6月の登録会について、今年度は昨年同様日程が早くから確定していた5/15つくばフェスティバルが1回実施されたのみで、実質的なスタートは7/22筑西市民会館であった。昨年度・一昨年度はいずれも6回ずつ開催されており、今年度の出遅れ感が際立っている。

(2) 年間計画の決定スケジュールは、2月頃に開催される翌年度の献血配車計画会議で初めて血液センターから年間計画が提示され、それを各保健所が持ち帰り、管轄区域内の献血会場で併行型登録会が開催できそうな会場を選定するのであるが、今年4月15日に開催された保健所担当者研修会で示された年度計画案では4月なし、5月2回、6月1回がエントリーされていたものの実現したのはつくば1回のみであった。

(3) 年間計画の中でピークの回避、日程の平準化に関する提案という形で業務課経由各保健所担当者に我々の考え、提案を伝達することは有意義なことである。

2. 登録会当日・事前配布用チラシの改定について

(1) 従来は私が作成したバージョンのものを統一的に使用してきたが、骨髄バンクサイトからの事前手続きによる当日登録時間短縮に効果が期待できることから、同趣旨のコメントを記載したバージョンを作成したので、今後はこれも併用することとした。

3. ブルデンシャル生命・健康診断時登録について

小田倉さんより情報提供があり、今後水戸支社と同様取組みに向けたアプローチをしていくこととなった。

4. 県パンフの改訂版手配について

同パンフの在庫が底を尽き出してきており、登録条件の改訂部分のみを記載したチラシの内容を網羅した新版のパンフを早急の手配していただくよう、事務局長より業務課に要望してもらうことになった。（牛島英二）

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

10月30日 建設フェスタ2005献血併行登録会&ペンシルバルーン募金

バンク登録実績：登録17名/受付22名 献血実績：採血67名/受付92名

ひたちなか保健所：渡辺さん、上松さん 登録推進員：五反田さん 説明員：牛島さん 貫井さん（説明員研修）、稲葉さん（説明員研修）、望月さん（説明員研修）、山崎夫妻、福間（究）さん、小田倉さん、植村さん、湯本さん、和田さん、林さん（説明員研修）、大石さん（説明員研修）、武田さん（神奈川の会）、細谷みさ紀



建設未来協議会の方のご尽力により建設フェスタでの登録会開催実現となりました。昨年協議会の関係者のみによる登録会を開催していただきましたから未来協議会による開催は2度目となります。当日何度も協議会のスタッフの方が登録会場にお出でになり、協会関係者へのチラシなどのPRを手伝っていただきました。フェスタに来場された方の殆どは小さいお子さんを持つ家族連れでした。20代から40代くらいの方が多く見受けられましたから実際に配った約7～800枚のチラシとパンフレットの広報効果は期待できるのではないかと思います。是非来年も開催していただけますよう働きかけて行きたいと思えます。（細谷栄一）

定例会に参加された方、翌日のイベントに参加された方お疲れ様でした。私は途中参加でしたが、バルーン募金は楽しいですね。初参加の大石さんも、前日のバルーン講習を受けただけに、手際よく作っていたのに驚きました。頼もしいですね。林さんとは入れ違いになってしまい話が出来ず残念でした。バルーン募金ですが、30、770円になりました。募金くださった皆様、ありがとうございます。（山崎晃子）



11月12日、13日 大好きいばらき県民祭り献血併行登録会

バンク登録者数：12日 7名、13日 11名

献血：12日：52名（受付66名）、13日：48名（受付67名）

参加者12日：つくば保健所 岩淵さん いばらきの会他・牛島さん、小田倉さん、川井さん、野沢さん、湯本さん、和田さん、大石さん、稲葉さん、望月さん、横田さん、武田さん（神奈川の会）

13日：つくば保健所 岩淵さん、谷中さん いばらきの会：小田倉さん、細谷さんとファミリー、川井さん、野沢さん、湯本さん、和田さん、植村さん、植村さんの友人、鈴木さん（説明員研修）、林さんとお子さん、佐藤さんファミリー

12日は朝、雨でしたので登録者数が少なかったのはやむを得ませんが、13日は好天にもかかわらず、登録者数は伸びませんでした。献血者が48名と少なかったのは、来場者の年齢層が高かったためと推測します。（福間究）



11月25日 県立医療大学献血併行登録会

献血：47名（受付65名） ドナー登録15名（受付16名）1名は献血後の貧血のため辞退

参加者：土浦保健所 藤村係長 登録推進員 伊藤さん（つくば献血ルーム） いばらきの会 野沢君、大石さん、福間さん、鈴木さん

この会場は2年前にも実施しており（6月に開催）当時は25名の登録者がありましたが今回は献血もドナー登録も結果としては低調に終わりました。どうしても学校と言う性質上、授業の時間の関係で学生数が少なく、昼休みには多くの学生がおりましたが、午後からの授業の時間との絡みで時間が取れなかった学生がほとんどのようでした。また特筆すべき点は、15名の登録者の内14名が女性でした。今回は反省点も多く、案内方法が悪かったわけではないと思うのですが、4、5名の方が献血とバンク登録にそれぞれ来たために2度刺しになってしまった点です。みなさん、お忙しい中でのご参加ありがとうございました。

（小田倉孝夫）

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

11月29日 三菱化学(株)鹿島事業所献血併行登録会

ドナー登録者数：受付31名 登録24名 不適格5名 キャンセル2名 献血実績：受付50名 採血39名
参加者 潮来保健所 高城様

潮来保健所管轄としては初の企業型登録会でしたが、会社側ご担当者のご尽力による事前PRや当日の構内放送などが功を奏して、対献血者登録率としては県内過去最高の61.5%を記録しました。会場にいられた時点で「ドナー登録に来ました。」と仰る方がかなりの割合を占めたことからそれが裏付けられました。保健所高城さんと私の二人だけという最少人数で対応しましたが、一時は10枚用意したクリアフォルダーが全て出払って不足し、県の封筒を代用したくらいに大忙しでした。高城さんにも受付と共に常時説明役をお願いするほどの繁盛振りでしたが、今回の成功は新規会場開拓に大変なご尽力をいただいた高城さんのご努力の賜物であり、心より感謝申し上げます。大変お疲れ様でした。また、顔なじみの血液センター宇津木さんにも「今日はドナー登録もやっていますがいかがですか？」と献血者にお声掛けいただいたことも成功の大きな要因であり、ご配慮にはほんとうに感謝しています。献血者数が伸び悩む中、ドナー登録のみの方もかなりおられたので、なんだか申し訳ない気分でした。会場の三菱化学(株)鹿島事業所は全従業員数1,500名くらいで、3直交代勤務のため当日昼間は500名くらいの在勤者数でしたので、潜在登録希望者はまだまだ多くおられる可能性があり、登録会終了後のご挨拶でその点に触れてぜひ来年度も献血併行型ドナー登録会の開催をお願いしたい旨を会社側責任者の方をお願いしてまいりました。(牛島英二)

10月21日～11月6日 東京モーターショー献血併行登録会

10月21日(金)～11月6日(日)の期間千葉幕張メッセで開催されていた東京モーターショーの会場内で献血併行型登録会が実施され、驚異的な好成績を収めました。以下は千葉の会、会長の梅田さんが全国骨髓バンク推進連絡協議会メーリングリストにアップした最終報告です。いばらきの会からも川井さん、野沢さん、福岡さん、私が参加しました。(牛島英二)

全国MLの皆様

千葉骨髓バンク推進連絡会(地区普及広報委員)の梅田です。モーターショーの途中報告を先日しましたが、11月6日(日)に全日程が終了しましたので最終報告をします。

今回の登録会は、日本自動車工業会の全面協力を得てモーターショーとしては3回目の登録会になります。井原(元Jリーガー)効果、登録年齢幅拡大効果、ボランティアの皆様の呼び掛けやチラシ配りの効果、そして何よりも日赤さんの献血受付時の「ドナー登録をやっていきます」の声掛け協力の効果が大きく、おかげさまでドナー登録者は852名もありました。この数字は03年の千葉県の年間登録者記録807名を17日間で大幅に塗り替える大きな成果です。献血者は、逆に我々ボランティアが献血中心の呼びかけをした成果もあり2,836名とこちらも03年の2,285名を大幅に塗り替えました。まさに相乗効果です。今回は実に献血者の30%に当たる方々が登録をして下さったこととなります。03年は10%でしたのでその効果が如何に大きかったかがわかります。

また、10月30日のドナー登録者117名は全国で過去に開催された集団登録会、献血併行登録会の一泊あたり登録者の新記録です。更に10月の全国のドナー登録数が過去最大の6,873名でしたが、献血併行では、千葉県が568名と全国1位でした。ご参加頂きました骨髓バンクボランティアの皆様には厚くお礼を申し上げますとともに今後ともモーターショーでの登録会のご支援を宜しくお願い致します。

10月21日(金)～11月6日(日)の17日間の結果総括

ドナー登録者：852名(受付887名、35名不適格)

献血者 200ml 528名 400ml 2,308名 計2,836名(受付3,800名)

11月29日 骨髓移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」鑑賞報告

東京スクールオブミュージック専門学校では骨髓バンク事業の厳しい現実を知り、白血病で苦しむ人々の力に少しでもなれるように、1994年から厚生労働省、夏目雅子ひまわり基金の後援を得て骨髓移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」の公演を行なうと共に募金活動も行なっております。このミュージカルを通じ、骨髓移植によって助かる命があるということを知って欲しいとの願いから活動を続けています。

当会から野沢君が参加しました。

11月29日、文京シビックホールにて行われました骨髓移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」を観劇して参りました。ストーリーは、ミュージカルの主役を目指してライバルたちと競う主人公「吉川ゆかり」は、ある日、ライバルの一人である「遥」が慢性骨髄性白血病に罹っていると判明したことをきっかけに骨髓バンクへのドナー登録を決意する。後にゆかりはドナーに選ばれるが、骨髓提供の日が最終オーディションと重なってしまう。ゆかりは他人の命と自分の夢のどちらを選ぶのか?というものでした。講演後には夏目雅子ひまわり基金事務局長・小達(おだて)一雄氏が登場し、妹・夏目雅子さんへの想いを述べ、骨髓バンクドナー登録へのお願いを涙ながらに訴えました。この講演は高校生が入場無料ということで、下限を18歳からと年齢枠を拡大した今、ドナー登録の対象となる或いはもうすぐという方にとって、骨髓移植や骨髓バンクへの関心を高めるよい機会になったのではないかと思います。また、劇中で医師役の方がドナー登録や骨髓提供について説明するシーンは簡単明瞭で分かりやすかったと思います。オーケストラによる演奏のもと、東京スクールオブミュージックの学生さんたちが繰り広げる情熱のこもった歌声とスピード感あふれるダンスに胸が熱くなりました。(野沢明男)

ドナー登録者30万人をめざして!

12月14日 水戸看護学校講演会報告

12月14日に行われました看護学校での講演のご報告をさせていただきます。当日は私も和田さんも、それまでに何度か2人で打ち合わせを重ねてきていたのですが、カチコチに緊張してしまっていて朝からどうしよう、どうしようと連発していました。看護学校に到着してすぐ担当の先生が優しくお迎え下さり、温かいお茶を淹れて下さってちょっとホッとしました。授業では2人の自己紹介後にまずビデオを上映していただいたのですが、学生さん達は皆さん大変真剣に画面に見入っていました。その後それぞれの話に移り、具体的な私たちの病院生活での医療者とのかわりや、実際の移植の時の事について、そして命の大切さについてお話ししました。この時点で私は相当頭が混乱した状態でしたので、もうなんだか普段のゼミの時のようなしゃべり方になってしまっていたと思います。それでも学生さん達はあらかじめお配りしたレジュメにメモをとったり、時折うなずいたりしながら熱心に聞いて下さいました。最後の質疑応答では率直なご質問をたくさんいただくことができ、私たちにとってはとても嬉しいことでした。授業が終わった後に、男子学生さんが一人「もう少し話を聞きたい」と言って控え室に来て下さいました。20分程度でしたが、看護師という職業に対する真剣な態度や姿勢に、むしろこちらが感銘を受けるくらいでした。私の話はつたないものですが、どの学生さんも、きっと患者の気持ちに寄り添って行動できる看護師になって下さるでしょう。このような機会を与えてもらい感謝しております。（湯本倫子）

講演会当日は、会場になった教室に2クラス84人と先生5名程が混ざって教室1部屋で皆さんに聞いてもらった為に教室がぎゅうぎゅう詰めの状態でした。講演会前に控え室に案内されたのですが先生の対応がすごく良くて安心しました。講演については一生懸命伝えたいつもりですが、ほぼパニック状態で何を喋ったかほとんど覚えていません。質疑応答では6名位から手を挙げてもらって何とか答える事ができました。後から男子学生さんが私達と直接お話ししたいと理事長室？を訪ねて来てくれて20分位話すことができました。訪ねて来てくれた彼は勇気を出して質疑応答の際に手を挙げてくれた一人でした。『治療ですごく辛い状態になってまでなぜ生きたいと思ったか？死にたいとは思わなかったのか？』という質問でした。訪ねて来てくれた時は新たな質問をもってやってきました。なぜ辛い経験を思い出させるようなこういう講演を引き受けるのか？というものでした。私はこう答えました。『社会の目はまだまだ白血病の知識が浅くもっと多くの人に知ってもらって今は、白血病や血液疾患の患者さんを骨髄移植をすればほとんどの人が助かるんだ！と理解してもらって、少しずつでもドナーさんが増えれば良いと思うからです』と話しました。自分が助かったばかりじゃ無しに現在の患者さんの為にも、活動して行きたいと2人で熱く伝えました。今日1日すごく不安でしたが、もうちょっときちんと喋りたかったと思いました。すごく良い体験、1日になりました。私達の思いが届いて1日でも早く患者さんの役に立ってもらえたらなと思います。このような機会を与えてもらい感謝しております。（和田かず美）



ドナー登録者30万人をめざして！



今号からこのコーナーを新設することになりました。私から特に希望したわけではありませんが、編集担当の慧眼に感謝しています。骨髓バンクボランティアに関わる私の想いを今後お話していきたいと思しますので、どうかよろしくお願い致します。

(1) 昨年9月に再登録

ご承知の通り、骨髓バンクの登録年齢上限が50歳から54歳に拡大され、一昨年に51歳の誕生日を以って登録抹消となっていた私も、拡大実施直後の昨年9月に再登録を無事果たしました。私が最初に登録した93年当時は平日休暇を取って最寄の血液センターに登録に出かけて、というとても面倒なものでしたが、再登録は私が責任者となった休日のドナー登録会で、私が説明員講師を務めて説明員資格を取得した若い説明員による申込書記載で正にあっという間に登録できました。ずいぶんと世の中進んだものです。

登録後初めて送付されてきた骨髓バンクニュース最新号に私と同じく再登録した方々がコメントを寄せていますが、10月の登録者の中には継続を含めて500人以上の方が含まれており、誠に心強く感じました。再抹消まであと2年を切りましたが、今度こそはドナー経験者に成りたいと心から念じています。

(2) 昨年5月についに初孫誕生

一昨年結婚した長男夫婦に第一子(女兒)が誕生し、めでたく52歳8ヶ月にして初孫ができて、ついにじいさんとなりました。孫はかわいいと世間の相場は決まっていますが、実際に自分がその立場となってみて、全くその通りだと実感しています。私が孫を抱いた写真を肌身離さず持ち歩き、だれかれとなく人に見せては自慢し、にやけています。(^^)

息子にはあまり甘い顔を見せませんが、孫にだけはせっせと貢いでおります。早く「じいちゃん!」と呼ばれるのが楽しみです。

1月～3月の登録会予定

- 1月30日(月) 住友金属工業鹿島製鉄所(担当地区普及広報委員 牛島)
- 2月 2日(木) 山新グランドステージ(担当地区普及広報委員 山崎)
- 2月 3日(金) NECコンピュータテクノ(株)茨城事業所(担当地区普及広報委員 細谷)
- 2月10日(金) 守谷市役所(担当地区普及広報委員 牛島)
- 2月20日(月) 日立市役所(担当地区普及広報委員 牛島)
- 2月21日(火) 常陸太田市役所(担当地区普及広報委員 細谷)
- 2月24日(金) 銚田市役所(担当地区普及広報委員 山崎)
- 3月10日(金) 坂東市児童福祉センター(担当地区普及広報委員 福岡)

※登録会の日時及び時間等に関しては変更になる場合がありますので、事前に事務局までお問い合わせください。

ドナー登録者30万人をめざして!

事務局からお知らせ

登録会やイベントなどで使用するジャンパーやポロシャツを追加注文の予定です。手元に無い方はお作りしますので、ご連絡下さい。これがあつたらいい？の意見もお待ちしております。

ポケットティッシュや会のパンフレットも製作予定。

「骨髄バンクを支援するいばらきの会」メーリングリスト(ML)に参加しませんか？

いばらきの会では、パソコンや携帯のメール機能を使った情報交換をしています。イベントや登録会の案内など新しい情報が届いたり、投稿も出来ます。まだ登録していない方はご参加お待ちしております！

メーリングリスト(ML)って？

グループ専用のメールアドレスあてにメールを1通送ると、グループメンバーにメールが配信され、届いたメールに返事を出すと、再び全員にメールが配信されます。

登録するにはどうすればいいの？

グループの管理人(山崎)bmt-ibaraki-owner@egroups.co.jpのアドレスへ名前とML登録希望のメールを送ってください。管理人よりグループへ登録次第、メールにて連絡します。

骨髄バンクのボランティアを応援してください

骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。活動資金は皆さまの善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。なお、ご面倒でもご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義:00110-3-127575

加入者名義:骨髄バンクを支援するいばらきの会

17年度年会費納入のお願い

平成17年4月～平成18年3月までの会費です。皆様からの会費は大切な運動資金です。有効に活用致します。また善意のご寄付もよろしくお願い申し上げます。年会費 一口 2,000円 何口でも



編集後記

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年は、トリノオリンピック、サッカーワールドカップと賑やかな年になります。

昨年同様、充実した会報作りになんぼってまいりたいと思っておりますのでヨロシクお願いします。(小田倉孝夫)

昨年の年間ドナー登録数、移植例数とも「過去最高」に！

平成17年(1～12月)の年間データは、ドナー登録者数が39,233人(これまでの過去最多は16年の28,388人)、移植例数が915例(同798例)と、最多記録を更新しました。

日本骨髄バンク骨髄提供希望者(ドナー)登録者数:232,565人(県内4,559人)

骨髄移植希望者(患者数):3,123人(県内45人)

バンクを通じての移植例数:7,017例(県内移植数134例、県内採取数123例)
(2005年12月末現在)

(財)骨髄移植推進財団 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp>

ドナー登録についてのご質問・お問い合わせは

財団フリーダイヤル 0120-445-445 または ドナーズネット <http://donorsnet.net> まで

ドナー登録者30万人をめざして！